

# 教養講座 地元学を考える

第百四十六回「地元学を考える」  
(二〇一六年二月二十七日開催)

## 「日韓外交正常化 五十周年」 友達だからできること

講師 鄭玄実さん

チヨンさんのお話は、大きく二つありました。一点目は、自ら日本に長年住んで感じた日本と韓国の文化の違いについて、そして二点目は、日韓外交正常化五十周年記念事業の内容についてでした。

一点目の文化差に関する講話は、パワーポイントを使用了大変分かりやすい比較文化解説が主でした。例えば、日本人は基本的に目立つことを嫌うため主張することに億劫になつてしまう傾向にあり、一方、韓国人は自分を表現するため意見を言うことをためらわない傾向にある、といったことです。これ以外にも食文化の違いなどについても紹介されていましたが、僕がとりわけ興味を持ったのは言語の違いに関する話でした。大学時代、言語学をいくらか学んでいたこともあり、語順の類似について

など、自身の知識を踏まえながら話を聞くことができました。

日韓外交正常化五十周年記念事業とは、昨年、日本で行なわれた日本と韓国の学生との大規模な交流事業のことを指します。講演では、その模様を映像によって紹介されていました。大変感動的な映像で、国際交流の正しい在り方をみた気がしました。あの事業に参加した学生たちならきっと今後の日韓関係に良い風をもたらすであろうと思います。それを証拠に、福島市で行なわれた韓国語スピーチコンテストにその事業に参加した学生が出場したことでした。その方は、事業に参加する以前は韓国について何も知らない、韓国語もろくにわからない、そんな状態だったそうです。改めて、国際交流の意義深さを痛感させられました。

地元学が終わってからの個人的に話す機会があり、チヨンさんの人となりを直接知ることができました。チヨンさんは温かな方で、それでいて国交活動に真剣、また行動的であり、尊敬できる面が多々ある方、というのが率直な印象です。「キ

ムチおばさん」で有名なチヨンさんですが、国際人としての熱い気持ちは、熱々の土鍋で食べる石焼ビビンバの如し！またどこかでお会いすることがあるはず、今から楽しみにしています。(H・I)



第百四十七回「地元学を考える」  
(二〇一六年三月十九日開催)

## 「日本のキリスト教の歩み」ザビエルから二本松キリシタン殉教まで

講師 柳沼千賀子さん

私が二本松で古くにキリシタン迫害による処刑があった事実を知ったのは、講師の二本松カトリック教会の柳沼さんに出会ってからです。一六〇〇年代、江戸幕府のキリスト教禁止政策の中でも自らの信仰を貫いて家族もろとも処刑され、その墓の所在も未だに判らぬという事に衝撃でした。今回「日本のキリスト教の歩み」ザビエルから二本

松キリシタン殉教まで」というお話をいただき、大きく目を開かれました。特にザビエル時代の日本のキリスト教の歴史は、日本にはほとんど資料が残ってなく、ザビエル等、東洋から日本に当時来ていた宣教師がローマ法王庁に送った報告書や手紙によってのみ知る事ができるとい事でした。

それにしても、熱心な外国の宣教師の活躍があったにせよ、キリスト教が厳しく取り締まられ、外国の情報、特にキリスト教等何も知らない多くの日本人が信者になったという事は、当時の人口の割合から考えても驚きです。

それは日本人の心に長く培われてきた、日本人の高度な精神構造にあったのではないだろうかと思つています。日本人は八百万の神々を信じていても仏教の浄土宗からは、行いによらずとも信ずるのみで救われるという教えや、儒教による高い道徳倫理観を教えられ、容易にキリスト教も信じる事ができたのだろうかと思つています。

は下層階級の人々に支持されたという事が、その表れかとも思っています。現代の我々にはその宗教観・倫理観の少なさが経済至上主義に流されるのだろうか。殉教される人が処刑を行う者に対して「彼らを罪しないのでゆるして下さい。彼らは何をしてい

るか分からないのですから」と祈ったというが、私がおの場になつたらそう、言う事ができるのだろうか。

第百四十七回の感想は地元学に参加された大内信一さんに寄稿していただきました。ありがとうございました。ございませう。



### 市民との共同制作～アートのか～

＜講師＞ 保住将文さん (彫刻家)  
＜日時＞ 2016年5月14日(土) 13:30～15:00  
＜会場＞ まちなか夢工房 2階 (参加費) 500円

＜講演内容＞

4月23日(土)～6月25日(土)まで、心の解放と創造することの楽しみを味わうことを目的に、アートという形を使った「リベラルアート教室」が全10回開催されます。『「Liberate」「解放する」という言葉の語源は、「Liber」「社会的・政治的に制約されていない」という意味のラテン語で、自由を指す言葉。「解放する」ことは、精神的に安定でき、自分を発見し、自分が何者かがわかる大切な行為です。私は、「リベラトル」「解放者」として、皆の心の問題を解決していく仕事に携わっていきたく切に願っています。』と保住さんはおっしゃいます。アートの持つ力について、市民との共同制作の例を交えながら語っていただきます。

\*参加人数把握の為、地元学講座各回ごとに出欠のご連絡をいただければ幸いです。(tel 024-524-2230 または fax 024-525-8285 までお願いいたします)

### 教養講座 地元学を考える

第百四十九回予告